



1月17日（水）避難訓練実施!!

阪神淡路大震災から29年を経て…

平成7年1月17日午前5時46分に、阪神淡路大震災が発生し、6,434人の人々が犠牲となりました。強い揺れが続き、その後の火災によって神戸の町の一部は焼け野原となりました。その大震災から、29年が経過しました。また、今年の元日にも能登半島地震が起き、多くの方が犠牲とられました。犠牲とられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災地の1日も早い復興を願うばかりです。

一昨日の避難訓練においては、学級で学習した後、実際に避難経路を確認しながらグラウンドに避難しました。その後、1分間の黙祷とともに、地震への備えなどの話をしました。

みなさんは、この避難訓練では「3つの安全行動」、「まず低く」、「頭を守り」、「動かない」をしっかりとることができましたか。また、避難するときの約束として「おかしもすき」ということが大切だということを学級でも学んだと思います。

阪神淡路大震災では、大半が建物や家具などの下敷きによって亡くなられたそうです。今一度家の中を見渡してみて、倒れてきそうなものがないか家族の方とチェックしてみてください。

地震は、いつ、どこで、どんな時に起こるか分かりません。今年の日元にも、家族団らんで過ごしているときに、最大震度7の能登半島地震が発生し、今なお多くの方々が、避難所生活を強いられており、ライフラインの復旧が急がれています。

学校では避難訓練がありますが、家庭ではなかなか避難訓練ができないので、いざという時のために、家具などの転倒防止や非常食を備えたり、家族と離れた時の避難場所や連絡方法などを決めておくことも大切です。

「備えあれば憂いなし」とよくいいます。今月2日に起きた飛行機事故でも、客室乗務員の日頃の徹底した訓練と、冷静で落ち着いた行動により、日航機の死者が出なかったといわれています。

この避難訓練が無駄にならないよう、非常時には冷静に判断し、行動できるよう心構えをしてほしいと思います。そして、災害への備えは、自他共に命を大切にするという考えを常にもつことから始まります。苦しいときには互いに助け合い協力し合って乗り切してほしいと思います。そして、これからも1日1日を大切に過ごしてくれることを期待しています。



1月18日（木） 大盛況の図書館まつり開催!!

1月18日（木）に図書館まつりを実施しました。多くの図書ボランティアの方々や図書館司書の竹内さん、図書委員さんたちの協力で、100人を超す生徒が図書館に来て、本を借りました。来館した生徒には、しおりや景品が配られ、もらった生徒は大変嬉しそうにいました。

近年、世間では急速にデジタル化が進む中、生徒たちが本に触れ、本を読む楽しさ、喜びを感じることはとても大切なことではないでしょうか。また、これらをきっかけに、読書が好きな生徒が増えてくれることを期待しています。

伊丹市は、平成18年3月に「ことば文化都市伊丹」特区の推進事業を中心とした取り組みを行い、「ことばと文化を大切に育む」「ことば文化都市」として様々な活動を行ってきました。なかでも平成24年に新しく整備された図書館「ことば蔵」は、まちなかの中核施設として幅広い人々に活用されています。

